

第二回運営委員、宿題委員会合同委員会報告

〔出席者〕 柿崎、黒崎、島崎、高橋明善、高橋正郎、長谷川、松田、安原、渡辺、高山

第二回運営委員会は、宿題委員会と合同で、一月三十日、一時半より中央大学会館で、六十一年度の共通課題と研究会開催予定を議題として開催した。

一、共通課題について、大会会場および、その後事務局に寄せられた意見は以下のものである。

一、「八五年度と同様でいいと思います。ただし土地管理機能なる用語のうち、管理の概念を形態、類型及び対象別に整理して、課題報告の枠組みをあらかじめ設定して、全体の総括をやりやすくしておく必要があると思われまます。」

二、「村落と土地は村研にとって最も本源的なテーマである。少し腰を落ち着けて歴史・現状・将来にわたってこの問題を討議してみたい。そのさい前近代の諸段階における村落と土地のあり方をふまえることが現状、将来にわたる土地問題を考えるうえで、不可欠の要素となるのではないだろうか。とにかく一〜二年で完結させるテーマではないと思います。」(岩本)

三、「来年度大会も今回と同じ共通課題でよいと思います。その場合、今回は水田地帯あるいは漁場を舞台にした報告でしたので、次回は山村(入会地の問題を意識して)や畑作地帯における土地管理機能という観点からも接近していただければよいと思います。」

四、「土地管理」を農業的利用に限らずにムラの機能をみていく

場合、以前の「危機」のテーマともつながりますが、ムラの土地の非農業的利用化(例えば、宅地化、大きくは区画整理事業)にさいしてのムラの対応、変質をその後の「混住化」とムラのあり方も展望しながらみていくことも、一つの、そして今後もふえていく事象と思われまして、視点となりうるかと思えます。以上、共通課題の継続に賛成し、それを前提にして、一つだけ提案いたします。

(中田)

五、共通課題は「土地と村落」で可。副題で色々な研究分野の人が参加しやすく聞きたくなるような工夫をしたらと思う。フィールドで言えば、離島、山村、漁村の報告がぜひほしい。歴史的に明治以前をふまえた報告がほしい。岩本委員に近い意味で。自由報告でも、日本以外の民族社会のものも遠慮せずに登場されたい。(但し、大味におわらずに)(原 宏)

この意見を参照しながら、本年度も「土地と村落」を課題とすることに決定し、そのうえで、サブ・テーマをどうするかの討議を行い、「村落の変貌と土地利用秩序」とすることとした。(なお、このサブ・テーマに関する委員会討議に就いては、本年度第一回研究会において、事務局より報告する。)

二、本年度第一回研究会は一月一八日(土曜)中央大学会館で開催することとし、第二回研究会はこれまで通り、五月頃に各地方研究会を開催し、それを踏まえて、第三回研究会を七月中に開き、例年のように三回の研究会を開催することを決定した。(高山)